

令和2年度 地域自立支援協議会交流会 実施報告

3 プログラム構成のねらい

1 交流会のテーマ設定理由（配付資料より）

①各地の自立支援協議会で、起きていること

○知的障害のある委員から、協議会について届いた言葉

「会議が難しかった。どんどん進んでしまい、わからなかった。」
「自分が止めると進まなくなるから、自分には難しいと思った。」
⇒誰でも、辞めたくなくて、当たり前

②自立支援協議会は、どう応えているか？

○区市町村へのアンケート（動向集）

「さまざまな障害のある委員が参加するにあたり、取り組んでいることは？」

<回答>

「点字資料の手配、手話通訳の手配」

「大型電動車いすでも入れる席のスペースを確保」

「資料へのルビふり」 など

→何のために、これら（合理的配慮）をするのか？

これらは、障害のある人が、障害のない人と同じスタートラインに立つために必要なこと

③自立支援協議会に「ないもの」は何か？

「点字資料をつくらなきゃ！」「ルビをふらなきゃ！」の前に…

- ・「あの人の声を聴きたい」「あの人の意見を知りたい」という心からの気持ちがあるか？
- ・「当事者の声」が反映される協議会
⇒「当事者の『語り』を『聴く』協議会」というテーマに

2 交流会終了後の取組の促進

○グループ討議で「今日の交流会を踏まえ、自分の区市町村に持ち帰ってやってみたいこと」を意見交換し、取り入れたいアイデアややってみたいことを見つけ、次の一歩を具体的に設定する。

○全体でグループ討議の共有をする代わりに、各グループの意見をワークシートにまとめ、後日、参加区市に送付
→ワークシートで他のグループのアイデアを共有する。

4 参加者アンケート

回答数：65

ミニシンポジウム

非常に参考になった	参考になった	あまり参考にならなかった	参考にならなかった
24 (36.9%)	36 (55.4%)	4 (6.2%)	1 (1.5%)

グループ討議・全体会

非常に参考になった	参考になった	あまり参考にならなかった	参考にならなかった	無回答
29 (44.6%)	35 (53.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (1.5%)

<自由意見>

- テーマは各区市町村が課題と感じていることかと思うので、議論が盛り上がった。
- DVD視聴、小グループでの討議と初めての形だったが、逆に静かに集中してできたので良かった。
- 当事者の方にグループ討議に参加してもらえて良かった。
- 何か1つでも各協議会に持って帰ってほしいという思いがこもった構成になっていたと思う。自分の協議会を振り返って身につまされることばかりだったが、大変勉強になった。
- 他区市町村の取組を聞くことができ、参考になった。すぐに取り組める内容もあると感じた。
- ミニシンポジウムの内容はとても良かったが、換気のため窓を開けていたので車の騒音や風によるブラインドの音で聞きづらかったのは残念だった。
- 感染対策がしっかりされており、安心して参加することができた。